

財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

# 2006年度 年次報告書



care®



CAREの活動の特徴の一つに、その包括的なアプローチがあります。なぜなら、貧困はさまざまな側面を持っており、また貧困の原因は一つではないからです。ケア・インターナショナル ジャパンは、2007年から特に「人道支援」「HIV/AIDS」、そして「女性と子ども」にフォーカスを当てながら、人道支援については災害発生時から中・長期的な視野に立った緊急・復興支援活動を実施し、HIV/AIDSに関しては感染予防のみならず、陽性者への支援を行い、また社会的に弱い立場にいる女性や子どもに対して教育・保健衛生などの多角的なサポートを行ってきました。

今後も、ケア・インターナショナル ジャパンは、CAREのグローバルなネットワークの中で他のメンバー国や現地事務所と力を合わせて、各地域の課題に沿った最も効果的な解決策を、そこに住むコミュニティの人々とともに導き出していきます。今までご支援いただきました皆様お一人お一人に心よりお礼を申し上げるとともに、今後ともより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

(財)ケア・インターナショナル ジャパン  
事務局長 野口 千歳

## CARE International

CAREは、世界中における支援活動をリードする国際協力NGOとして、現在、世界70カ国の途上国や紛争地域において、年間800億円に上る支援事業を行っています。その高度な専門知識と経験を持った約13,000人のスタッフによる活動は、国連をはじめとする各種専門機関や支援国の人々から高い評価と信頼を得ています。

CAREは、収入向上、教育、保健・衛生、農業、環境など多岐にわたる分野での活動を通して、貧困の根本的な解決に取り組み、最も困難な立場にある人々の自立を支援します。また、紛争や災害時には、その国際ネットワークを生かし、世界各地の被災地にて瞬時に緊急支援活動を開始、復興へと結びつけていきます。CAREは設立60年を超え、その活動は、現在、世界の33万人以上の人々によって支えられています。



互いにまっすぐ伸びていく手が形作る輪。  
グローバルな視点で地球規模の問題に力を合わせて立ち向かう、CAREの活動の本質をイメージするものです。それは、一体であるだけでなく、多様性を認めるものでもあります。さまざまな環境に生きる世界中の人々が、共通の目標のもとに1つになったときに生み出される大きなチカラ。CAREのロゴにはそんな意味が込められています。

### 海外事業

- 2006年**
- 7月～
    - 前年度からの以下の事業を継続して実施
      - 「女子教育事業 サマキクマールII (カンボジア)」
      - 「コミュニティのための人材育成事業 (カンボジア)」
      - 「スマトラ沖津波復興支援 子どもの心のケアプロジェクト (スリランカ)」
      - 「コミュニティ運営による初等教育プロジェクト (アフガニスタン)」
      - 「カントー橋建設にかかるHIV/AIDS予防事業 (ベトナム)」
    - 「紅茶農園内住民組織の運営能力向上プロジェクト (スリランカ)」開始
    - 「ジャワ島地震緊急支援：水と衛生プロジェクト (インドネシア)」開始
  - 8月
    - 「ジャワ島地震緊急支援：水と衛生プロジェクト (インドネシア)」終了
    - 「ジャワ島地震復興支援：保健衛生改善プロジェクト (インドネシア)」開始
  - 11月
    - 「ジャワ島地震復興支援：保健衛生改善プロジェクト (インドネシア)」終了
  - 12月
    - 「女子教育事業 サマキクマールII (カンボジア)」終了
- 2007年**
- 1月
    - 「テトウン語民話集出版プロジェクト (東ティモール)」開始
    - 2008年G8サミットNGOフォーラムに参加
  - 4月
    - 「ジャワ島地震復興支援：住宅再建プロジェクト (インドネシア)」開始
    - 「テトウン語民話集出版プロジェクト (東ティモール)」終了
    - TICADIV・NGOネットワークに参加
  - 6月
    - 「HIV/AIDSと人権プロジェクト (ベトナム)」開始

### 海外事業

本年度は、開発協力事業として、カンボジア、スリランカ、アフガニスタン、ベトナムにおける前年からの継続事業5件に加え、スリランカでの紅茶農園内住民に対する支援事業、東ティモールでの現地語による出版事業、ベトナムにおけるHIV/AIDSと人権に関する事業の新規事業3件、合計8件を実施しました。

また、2006年5月に発生したジャワ島地震の被災者を対象とした緊急・復興支援事業3件を実施し、ジャパン・プラットフォームの助成による事業を本格的に行いました。さらに、カンボジア、アフガニスタン、パキスタンにおいて調査を実施し、ガーナにおいてCAREの事業地訪問を行うなど、次年度以降の新規事業の実施に向けた活動を強化しました。

次年度に向けた動きとしては、2008年のG8サミット(主要国首脳会議)とTICAD IV(第4回アフリカ開発会議)に向けたNGOネットワークに加入しました。また、外務省と保健分野で活動するNGOによるGII/IDI懇談会、JICA・NGO協議会および小委員会、日本UNHCR・NGO協議会および同アドボカシー・ワーキング・グループ、ジャパン・プラットフォームNGOユニットなどの活動に参加しました。

### 国内活動

- 2006年**
- 7月
    - ケア・サポーターズクラブ熊本発足記念式
  - 9月
    - CSRシンポジウム開催
  - 10月
    - 「CAREマンスリー・ギビング・プログラム」を創設
    - 「グローバルフェスタJAPAN2006」に参加
  - 11月
    - 「CARE設立60周年記念ディナー」開催
    - 「フェスティバルラティノ・アメリカノ」に参加
    - カンボジア駐在スタッフによる「女子教育事業」終了報告会を開催
- 2007年**
- 2月
    - ケア・フレンズ東京主催による講演会
    - CARE支援組織代表者会議
  - 3月
    - ケア・フレンズ岡山主催による講演会
    - 東京都港区麻布郵便局にてケア・パッケージ展示会を開催
  - 4月
    - ケア・サポーターズクラブ大分主催による講演会・総会
    - アジア婦人友好会主催「アジアの祭典」に参加
  - 5月
    - ケア・サポーターズクラブ熊本主催のスリランカ事業報告会を開催
    - スリランカ駐在スタッフによる福岡における報告会を開催
    - 西町インターナショナルスクール主催イベントに参加
  - 6月
    - ケア・フレンズ札幌主催による講演会
    - パキスタン・サイクロン緊急募金の協力呼びかけ
    - 世界難民の日関連イベントに参加

### 国内活動

本年度は、ケア・インターナショナル ジャパンの支援グループの運営支援およびグループ同士の連携強化に注力し、初めて支援グループ代表者会議を実施しました。また、企業パートナーシップの開拓に向けて、CSRシンポジウム「企業と社会の新しいパートナーシップに向けてー社会的ブランド価値を高めるための協働戦略とは」を開催し、途上国におけるCAREと企業との協働の事例を紹介し、企業とNGOのパートナーシップのあり方についてのディスカッションを行いました。

会員制度においては新たにマンスリー・ギビング・プログラムを設立するとともに、オンライン募金やクレジットカード支払い、自動引き落としなど寄付方法のオプションを増やす工夫を試みました。また、ファンドレージング・イベントとして、「CARE設立60周年記念ディナー」を開催し、会員を中心に多くの方に出席いただきました。

広報活動においては、特にホームページの内容の充実に注力しました。また、CARE設立60周年に関連し、戦後のCAREの支援の象徴である「ケア・パッケージ」の展示企画を実施しました。さらに、現地駐在スタッフによる事業報告会を開催し、CAREの活動に対する理解を深めるための活動を行いました。



対象地域：カンボジア プレイベン州ヒムチャオ地区  
対象者：退学の可能性が高い小学校高学年女子と就学していない6歳～18歳の女子約1400名およびコミュニティ住民  
実施期間：2004年2月～2006年12月（2年10カ月間）  
主支援者：国際協力機構（JICA）、アート・コーポレーション株式会社

## カンボジア

### 女子教育事業 サマキクマールⅡ

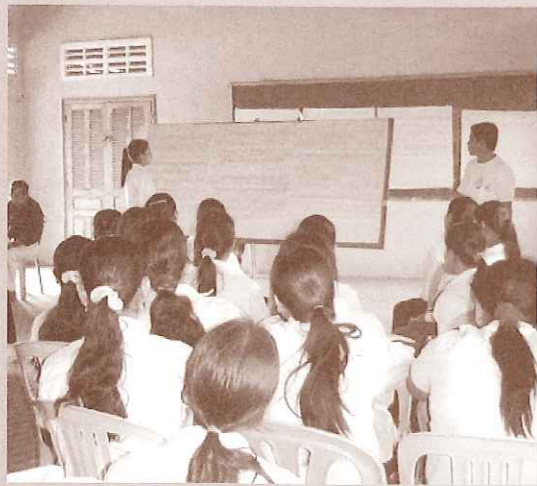
この事業は、貧困や住民の女性教育への理解不足が原因で女子の就学率・進学率が低い地域において、女子が教育を受ける機会が増えるよう、家庭・コミュニティ・学校の環境を改善していくことを目標としています。

本年度は、学校とコミュニティにおける高学年の女子・教員・保護者・教育関係者を対象とした教育への関心を高めるための意識向上活動、貧困家庭の女子を支援する奨学制度、教育省と連携したコミュニティにおける基礎識字およびポスト識字教育を継続して行いました。また、コミュニティ住民・学校・地区行政関係者の連携を深めるための活動や住民によって計画された女子教育支援のためのアクションプランの実施なども行いました。

2006年12月に前事業の「サマキクマールⅠ」から通算して4年間継続した活動を終了しました。当初、活発とはいえなかった住民による活動も、住民側が主体的に動き、さまざまな活動が運営・展開されるようになりました。この事業では、カンボジアの最小行政単位であり地方自治体の中で最も重要な担い手である「コミューン」の女子教育に関する諸問題についての意識向上もはかりました。また、コミューン評議会を含む関係者間の連携を強化することでお互いの理解と信頼を高め、プロジェクト関係者間の協力体制を構築しました。さらに、物質的対価ではなく、自身のためになる経験や知識・技能が得られることが参加の動機となり、プロジェクト参加者の内面的な向上（自信、尊敬、社会貢献や社会との関わりに対する意識、新しいスキル取得に対する意欲、広い視野など）を達成することができました。

事業終了後は、ケア・カンボジアが実施する農村開発プログラムの中でフォローアップが行われています。ケア・インターナショナル ジャパンは、この事業の実施によって得られた経験を組織内の知識として蓄積していき、新規事業として現在、申請中のカンボジアにおける青年男女の能力向上事業に生かしていきます。

## 継続事業



対象地域：カンボジア カンダール州ルックダイク地区  
対象者：女子教育奨学制度事業で高校に進学した奨学生  
実施期間：2004年10月～2007年9月（3年間）  
主支援者：ケア・フランス岡山、ケア・フランス東京

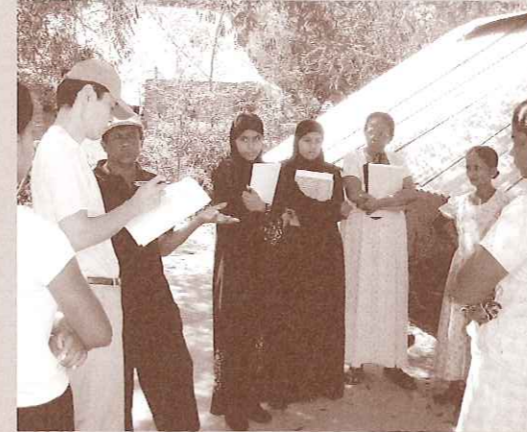
## カンボジア

### コミュニティのための人材育成事業（女子教育奨学制度事業Ⅱ）

この事業は、前事業の「女子教育奨学制度事業」で高校に進学した奨学生たちが、就学を継続し、コミュニティの発展に役立つ知識・技能を身につけることを目標としています。

本年度は、奨学生に対する学用品等の支給や補習授業の開催および奨学生・親・地区奨学制度運営委員会メンバーに対するジェンダー意識向上ワークショップの実施を継続して行いました。また、地区奨学制度運営委員会によって事業運営を行うとともに、奨学生によるほかの生徒やコミュニティの人々に対するコミュニティ活動も実施しました。なお、奨学生が高校3年生となり、2008年8月の国家試験に向けて勉強に集中できるよう、本年度は週末に行われるホームエコノミクス実習は行わないこととしました。

昨年度から継続して事業に参加している奨学生60名のうち、2名が家庭の事情により活動から離れましたが、その他の生徒は就学を継続しており、経費補助や学習機会の提供による成果が現れています。奨学生はワークショップを運営する能力を養い、かつ自分たちの意見を明確に伝えられるようになりました。この事業を通じて、特に関係者間（奨学生、奨学生の両親、教員、コミュニティ委員、コミュニティ・リーダー）の連携が重要であり、密な連絡と連携が効果を高めることが認識されました。2007年9月には、奨学生たちは高校課程を修了し、この事業も終了します。この事業を通して得られた経験と教訓は、女子教育分野の今後の計画につなげていきます。



対象地域：スリランカ 南部州ハンバントタ県アンバラントタ、ティッサマハラマ、スーリヤウエワ  
対象者：アンバラントタ、ティッサマハラマ、スーリヤウエワの6村 約600世帯 3000人  
実施期間：2005年4月～2008年3月（3年間）  
主支援者：一般寄付、学校、日産自動車株式会社

## スリランカ

### スマトラ沖津波復興支援 子どもの心のケアプロジェクト

この事業は、2004年のスマトラ沖津波により被災した子どもたちの心の傷が癒され、心身ともに健全な生活を送ることができるようになることを目標としています。

本年度は、まず、村の生活レベル・津波の被害レベル・公共サービスの有無などの選定基準に基づいて、20のコミュニティの最貧困層517世帯を直接対象として選定しました。政府関係者・NGOスタッフ・対象地域の村人から収集した情報、また昨年度の経験を総合して活動計画を策定し、実行しました。活動内容としては、①デング熱とマラリア予防のための保健衛生の予防啓発活動、②レクリエーションに限られた最貧困層の子どもたちを対象とした「正月祭」の開催、③児童虐待をコミュニティレベルで防止することを目的とした、教師・地域政府・プロジェクト実施責任者で構成する「子どもの権利委員会」の設立などが挙げられます。

津波後の社会変化によってさまざまな問題に直面しているコミュニティの人々が子どもたちを尊重し、心身ともに健康であることの大切さについて意識を高めること、また、自ら具体的な問題の解決に取り組んでいくための基礎的な能力を身につけることを実現するため、引き続き活動を行っていきます。



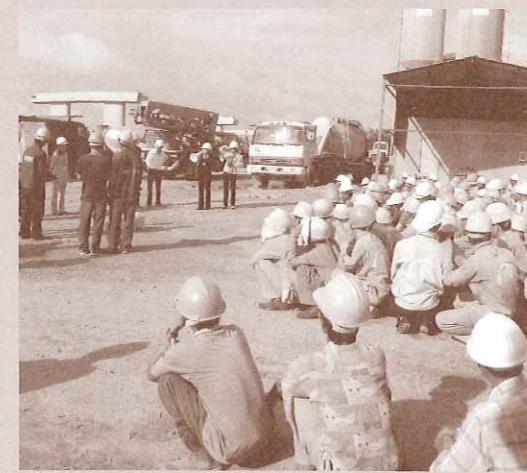
対象地域：アフガニスタン 南東部および中央部の遠隔農村地域  
対象者：アフガニスタン南東部および中央部9州の遠隔農村地域の教員、コミュニティの人々と生徒3038名および地方教育行政機関  
実施期間：2004年7月～2008年6月（4年間）  
主支援者：ケア・フランス岡山（山陽放送株式会社）

## アフガニスタン

### コミュニティ運営による初等教育プロジェクト

この事業は、教員・コミュニティ・地方教育行政機関のキャパシティを高め、コミュニティ運営による学校での活動を通して、遠隔コミュニティの生徒が質の高い初等教育を受けられることを目標としています。

ケア・インターナショナルが実施する全活動のうち、ケア・インターナショナル ジャパンは、昨年度に引き続き、教師や教育委員会メンバーに対して女子が教育を受ける権利やコミュニティ学校の運営などに関する研修を実施するとともに、生徒に対する教材配布などを行いました。この事業で運営が確立されたコミュニティ・スクールは、順次、政府管轄の学校に移管されてきていますが、アフガニスタンにおける教育分野のニーズは依然として高いため、さらに1年間延長して実施することになりました。現地調査の結果、中等教育や職業教育分野でのニーズが年々高まっていることが確認されていることから、来年度以降はドナーの意向を踏まえつつ、この事業の継続について検討していきます。



対象地域：ベトナム カントー県カントー市  
対象者：カントー橋建設に関わる移動建設労働者と周辺コミュニティの人々  
実施期間：2006年2月～2008年2月（2年間）  
主支援者：大成建設・鹿島建設・新日本製鐵JO（契約先）

## ベトナム

### カントー橋建設にかかるHIV/AIDS予防事業

この事業は、日本のODAによって建設される大規模な橋梁建設に従事する移動建設労働者と周辺コミュニティの人々のHIV/AIDSなどの性感染症のリスクを減少させることを目標としています。

本年度は、1年次終了時の中間評価を実施し、2年次への調整・改善をはかりました。建設現場でのヘルストークや質問箱の設置などを通して労働者に対するHIV/AIDSおよびSTD防止・治療に関する啓発活動と情報提供を継続して実施するとともに、ヘルスワーカーに対する研修や企業と地域間のHIV/AIDS防止・治療・ケアサービスの連携向上のための取り組みも行いました。また、コンドームの配布場所を増やし、性産業従事者を中心とする教育グループの形成と教育者の養成を行いました。

上記の活動の結果、労働者や性産業従事者間でHIV/AIDSやコンドームの使用方法に関する正しい知識が普及するとともに、コンドーム使用率が90%に上がるなど活動の成果が見られました。また当初、この事業に対して積極的ではなかった政府関係者も予防活動の重要性を認識するようになり、今後、運輸省関係のインフラ事業においてはHIV/AIDS予防活動を含める方針を打ち出しました。さらに、建設工事に関わる業者、保健分野の地方政府職員などから構成されるプログラム実施チームの定期的な会合を通じて、今まで連携がなかった関係者の間でそれぞれの役割が明確になり、活動への理解と支援が得られました。

## 新規事業



対象地域： スリランカ 中央州およびウバ州にある15の紅茶農園  
 対象者： 紅茶農園における住民組織 約100グループ (4500人)  
 \*間接的には、農園居住者 約4万人を含む。  
 実施期間： 2006年7月～2008年6月 (22.5カ月間)  
 主支援者： 国際協力機構 (JICA)、一般寄付

### スリランカ

#### 紅茶農園内住民組織の運営能力向上プロジェクト

この事業は、社会的・経済的に外部社会から隔絶された状況にある紅茶農園住民の生活改善を目指した「プランテーション居住者の生活改善事業」に続くものです。この事業では、農園内で行き届いていない公共サービスを紅茶農園住民が活用できるよう住民組織の運営能力を向上させること、および農園外部からの行政・商業サービス（地方行政、郵便、銀行、地元NGOなど）と連携を深めることにより社会保障システムを強化することを目標としています。

本年度は、関係者が定期的に活動計画の実施を管理できるよう、モニタリングシートを作成し、活用者（住民組織・農園経営側）へのトレーニングを実施し、農園内の連携とコミュニケーション強化をはかりました。農園内外の連携システム構築においては、関係省、プランテーション人間開発基金、JICA、CAREが定期会議を開催し、プロジェクトスタッフ、政府行政官、プランテーション人間開発基金の間の情報交換・普及システムを構築しました。また、各農園のインフォメーションセンターで利用できるサービスと情報を調査・分析してデータベース化し、センター機能の検証を行いました。

新しい情報とサービスがインフォメーションセンターに導入され、全農園でセンターの維持と農園内の課題に対する対応などが住民によって実施されるようになりました。農園内外の連携については、地方行政官からの支援が確実になったほか、多くの農園経営側がこの事業の目的を理解し、必要な情報を快く提供するようになりました。

### 東ティモール

#### 現地語による子どもの教育プロジェクト テトゥン語民話集出版プロジェクト

この事業は、現地語（テトゥン語）による初の民話集の作成と使用を通じ、子どもたちやコミュニティの人々が東ティモール独自の文化を再認識するとともに、東ティモールにおける初等教育の向上と子どもの権利の推進に貢献することを目標としています。

この事業では、CAREの東ティモールにおける教育プログラムの一環として発行されている唯一のテトゥン語による教育誌、「ラファエック誌（2000年創刊）」で民話を公募しました。子どもたちは、各家庭で代々語り継がれてきた民話を記録し、応募しました。集められた民話は編集され、テトゥン語による初めての民話集が出版されました。制作された3,000冊は、東ティモールのすべての小学校に3冊ずつ配布され、読み物および教材として活用されます。また、コミュニティの図書館にも配布されました。

民話を記録する作業は子どもたちの作文能力向上の機会となり、テトゥン語の本の出版は、ラファエック誌以外の本を手にするできない子どもたちの読み書きを促進しました。さらに、教材として提供することにより、教育の質の向上をはかりました。現地語の読み物の出版は、東ティモール独自の文化の再認識に貢献することが期待されるため、来年度以降も、一般・企業寄付や助成金による事業の実施を検討します。

### ベトナム

#### HIV/AIDSと人権プロジェクト

この事業は、HIV陽性者、医療従事者、政策策定者それぞれに対する意識向上をはかり、HIV陽性者への理解が深まり、人権が確保されることを目標としています。

この事業は、ケア・ベトナムが実施してきた複数のHIV/AIDSと人権に関わる活動から得た経験や教訓を集約した事業として形成されました。ケア・インターナショナル ジャパンは、感染予防を中心としたHIV/AIDS事業を実施していますが、この事業では人権の問題も取り上げ、HIV/AIDSの課題に包括的に取り組みます。

本年度は、実施のための準備期間とし、各関係者との調整を行いました。また、日本国内での理解を深めて支援者を募るために、ベトナムに進出している企業およびエイズ関連団体とのディスカッションを通して、連携・協力の可能性について検討しました。ベトナムにおいて人権問題を取り上げることは非常にセンシティブな問題であることから、HIV陽性者、医療従事者、政策策定者など各関係者のニーズや立場に十分配慮した上で、今後、活動を実施していきます。



© CARE/2006

対象地域： 東ティモール全域（面積：約1万4000平方キロメートル、人口：約94.7万人[2005年]）  
 対象者： 東ティモールの全小学生（257,999人）と教員、配布先は全小学校および図書館（約2000箇所）  
 実施期間： 2007年1月～2007年4月（4カ月間）  
 主支援者： 花王株式会社、花王ハートポケット倶楽部、株式会社 毛利建築設計事務所、ディアシステム株式会社、飛鳥建設株式会社、株式会社 スミロン山本様、一般寄付



対象地域： ベトナム ハノイ市、ホーチミン市、クアン・ニン県  
 対象者： HIV陽性者、医療従事者、政策策定者  
 実施期間： 2007年6月～2010年6月（3年1カ月間）  
 主支援者： 日本郵政公社、一般寄付

## 支援プロジェクト 緊急・復興支援事業

対象地域： インドネシア 中部ジャワ州クラテン県およびジョグジャカルタ特別州スレマン県  
 対象者： 2006年5月に発生したジャワ地震で被災した24の村に住む約2万世帯、10万人  
 実施期間： 2006年7月～2006年8月（2カ月間）  
 主支援者： ジャパン・プラットフォーム (JPF)、スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社、一般寄付



対象地域： インドネシア 中部ジャワ州クラテン県およびジョグジャカルタ特別州スレマン県  
 対象者： 2006年5月に発生したジャワ地震で被災した18の村に住む約3万2500世帯、約16万人  
 実施期間： 2006年8月～2006年11月（3カ月間）  
 主支援者： ジャパン・プラットフォーム (JPF)、スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社、一般寄付



対象地域： インドネシア 中部ジャワ州クラテン県およびジョグジャカルタ特別州スレマン県  
 対象者： 2006年5月に発生したジャワ地震で被災した15世帯、約70人  
 実施期間： 2007年4月～2007年8月（5カ月間）  
 主支援者： 一般寄付

## 新規事業

### インドネシア

#### ジャワ島地震緊急支援：水と衛生プロジェクト（2006年8月に終了）

この事業は、被災者が安全な飲料水を確保することができ、水因性の病気（伝染病や下痢症）のまん延を防止することを目標としています。ケア・インターナショナル ジャパンのスタッフを現地に派遣し、ケア・インドネシアと協力して以下の活動を行いました。

- ①約2万本（2万世帯、各1カ月分）の水浄化剤と容器の配布
- ②基礎調査および下痢症や水質についての調査・モニタリング
- ③現地NGO、コミュニティのリーダー、ボランティアなどに対する各種トレーニングの実施
- ④防水シート3850枚の配布
- ⑤助産師、コミュニティの保健ボランティアを対象とする保健衛生トレーニングの実施
- ⑥保健衛生啓発キャンペーンの資料作成・配布および路上劇の開催

この事業は、初めてジャパン・プラットフォームの助成を受けて実施した活動であり、ドナーとの調整、CARE内部や現地NGOとの関係などにおいて、現地できざまな課題に直面し、教訓を得ることができました。また、水浄化剤については、単に配布するだけでなく、被災者に使用方法や使用の意義について十分に理解してもらえるよう、デモンストレーションや啓発活動を行うことの重要性が再認識されました。

### インドネシア

#### ジャワ島地震復興支援：保健衛生改善プロジェクト（2006年11月に終了）

この事業は、上記の「水と衛生プロジェクト」に続いて実施した復興支援事業です。被災者が保健衛生に関する知識を得ることによって、健康で衛生的な生活環境を回復し、伝染病や下痢症などのまん延を予防することを目標としています。

スタッフ1名と、新たに採用したスタッフ1名の合計2名を現地に派遣し、ケア・インドネシアと協力して以下の活動を行いました。

- ①コミュニティの保健衛生ボランティア84名に対するトレーニングの実施
- ②ラジオ放送による保健衛生啓発キャンペーンの実施
- ③基礎調査および下痢症や水質についての調査・モニタリングの継続
- ④防水シート約2240枚の配布

この事業では、保健衛生に関するトレーニングと啓発活動を主に実施しましたが、事業実施期間中に感染症の大発生は報告されず、前述の「水と衛生プロジェクト」とあわせ、期待された成果を上げることができました。

### インドネシア

#### ジャワ島地震復興支援：住宅再建プロジェクト

この事業は、被災者が耐震性のある住居で生活ができるようになるために必要な資材の提供と技術協力を行うことを目標としています。

特に母子家庭や身体障害者、高齢者、最貧困層を対象とし、被害が最も深刻な15世帯を対象に、耐震構造物（土台、支柱、屋根）を建設するとともに、受益者が完工に向けて自力で行える技術（壁、ドア、窓枠などの設置）を指導しました。現地パートナーを通して、熟練労働者のための研修、設計・建設の専門的支援、地域での奉仕活動の提供も行いました。また、MBA (Market Based Approach: 地元の流通システムを利用して必要な物資を配布する方法) により耐震構造物を建設するための建材を提供しました。

# ジャワ地震から1年～被災者は今

\*この記事は、2007年5月にケア・インドネシアが制作したジャワ地震1年後のリポートの内容をまとめたものです。

2006年5月27日、マグニチュード5.9の地震がインドネシアのジャワ島を襲いました。この地震により中央ジャワとジョグジャカルタ地域の270万人以上の人々が被害を受け、約6000人が命を落とし、37,000人以上が負傷しました。ほんの数分の地震が引き起こした壊滅的な被害の影響はずっと続きました。2004年のスマトラ沖津波地震のときのインドネシア国内での数よりも多い約100万人が家を失いました。地震発生から48時間以内に、CAREは被災地に入り、被害状況の調査を開始しました。1年経った現在、CAREの活動は緊急支援から、被災者の生活の再建を支える復興支援段階に移行しています。世界中の支援者からいただいた約320万ドルの寄付金は、最も必要とされる地域において展開したさまざまな活動に役立てられてきました。ここでは、CAREがこれまでにやってきた主な活動について報告します。



## 緊急支援

### 1.安全な飲料水

地震により井戸が破壊され、飲み水はトイレからの汚染された水にさらされました。住居を失った世帯は、安全ではない水を使うしかなく、これにより下痢などの水因性の病気を発症する危険性が増しました。CAREは、現地のパートナーNGOと連携して、20万人以上の被災者に水の浄化剤の配布を行うとともに、その使用方法や注意点などについての説明も行いました。また、啓発キャンペーンも実施し、住民に正しい衛生知識を定着させるための情報普及を行いました。

### 2.保健

被災者の間に感染による病気が増加しているのを受け、CAREは、病気を予防するための健康に関する教育プログラムを実施しました。現地パートナーNGOと連携し、健康と衛生的な生活習慣に関する教育をコミュニティに対して行うことで、公衆衛生を改善し、人々の命を救うことができます。このプログラムでは、破傷風や下痢、デング熱などの予防や特に乳児に対する対応が重要課題に含まれています。また、これらの情報を共有するため、CAREとパートナーNGOは、助産師に直接働きかけ、コミュニティの保健ボランティアに対してトレーニングを実施しました。

### 3.地域経済を活用した支援

農作物や家畜が被害を受け、65万人以上が生活手段を失ったことにより、ジョグジャカルタの農村地域の住民は貧困状態に陥りました。そこでCAREは、地域経済を活性化しながら、増大する食糧不足に対応するため、地域経済を基盤とする革新的な支援プログラムを開始しました。このプログラムでは、被災者は、CAREから配布される券と引き換えに地元の商店から食糧を手に入れることができます。一方で、CAREがそれらの食糧を提供した商店に対して支払うことで、商店の収益増加を助けます。提供されるものは、食糧のみでなく、石けんや歯みがき粉などの衛生用品も含まれます。CAREは、このプログラムにより1万人以上の人々を支援し、地元の商店30店の再建を助めました。プログラム終了までに、発行された99%の券が商品と引き換えられました。

## 復興支援

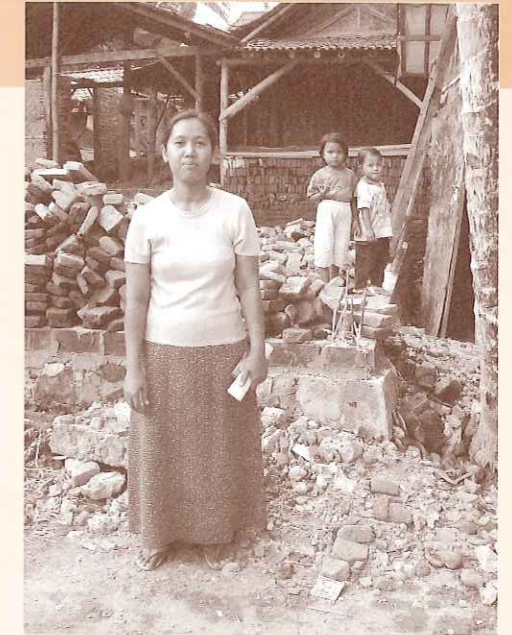
### 1.住民自らが関わる住居と生活の再建

CAREは、耐震性のある住居の建設とあわせて地域の経済の再建を支援するプログラムを実施しています。このプログラムは、家を建てることを直接的に支援するのではなく、耐震性のある住居の建築に必要な物資とトレーニングを人々に提供し、住民が主体となって住居や生活の再建に関わることを支援するものです。CAREは、現地のエンジニアや建設作業員などに適切な耐震工法についてのトレーニングを行い、また、住民からは代金を徴収せず、これらの建設作業員が住民のための住居建設を行うよう手配します。その代わりに、住民たちは高度な技術が必要としない労働を提供したり、政府からの補助金で建材を買います。こういった活動を通して、CAREは安全な住居、安全なコミュニティ作りを促進するとともに、現地のエンジニアや建設作業員の能力向上をはかっています。

## 頑丈な住居、安心して暮らせる家

1年もの間、Kasiatunは避難所に住み、最低限の生活をしてきました。「今はテントで暮らしています。これは私が自ら建てたのです」。地震により、築35年の家と財産をすべて失いました。しかし今は、彼女の家の建設が始まろうとしており、過去の出来事を過ぎ去ったものと考え、前に進むことができます。ガッツポーズをして「ワクワクするわ」と彼女は言います。ほかの村人たちと同様に、自ら単純な労働に関わり、自分の村の再建に貢献することに意義を見出しています。

「私はとっても幸せです。もうすぐ新しい家を持つことになるのだから」。



### 2.住民が中心となった水に対する習慣改善

地震により破壊された井戸の飲料水は、周辺のトイレからの汚染水にさらされました。CAREが行った調査では、ジョグジャカルタの2つのコミュニティのほぼ大半の井戸が大腸菌によって汚染されていることが確認されましたが、住民はこれらの井戸水を適切に扱うための知識を持っておらず、下痢や皮膚病が増加しました。こういった健康面での脅威と闘うためにCAREが実施しているプロジェクトでは、女性グループ、男性グループ、コミュニティグループを通して、住民に適切な水の扱い方を教える活動を行っています。コミュニティグループは、リーダーシップをとり、現地のニーズに合った教材を考案しています。また、演劇などさまざまな形の啓発のための活動を行っています。また、安全な水を得るために必要な湯沸かし器を購入するために、貯蓄・貸付プログラムを行っているグループもあります。このプロジェクトにおける活動は、水の適切な扱い方に関する住民の知識を増やし、将来にわたってコミュニティに持続的な効果をもたらすものと期待されます。

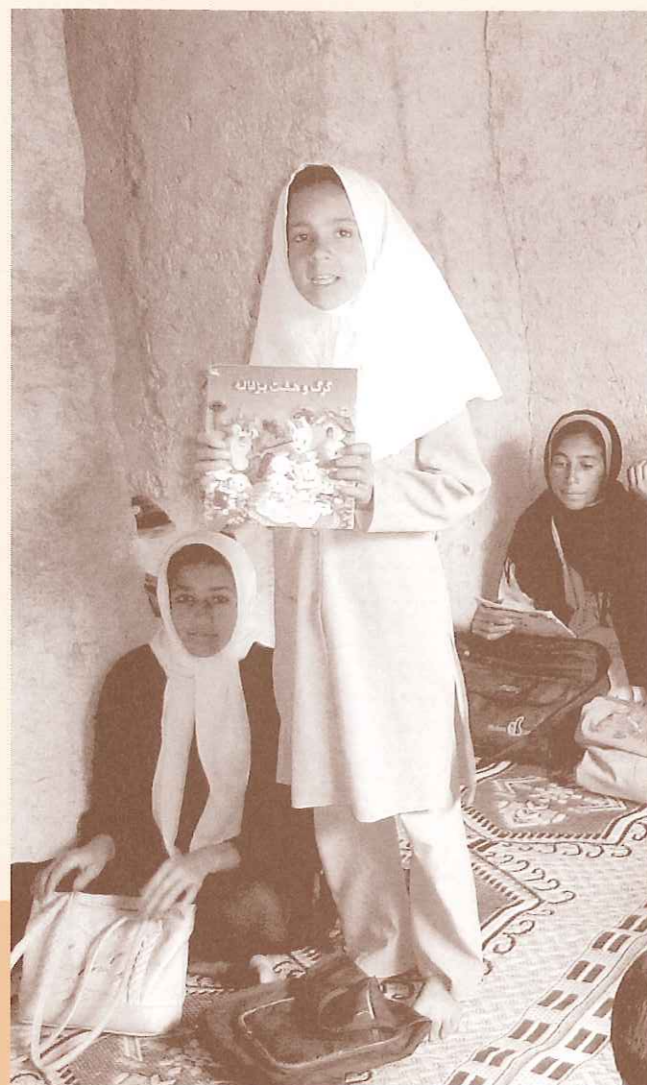
## 隣人のためになる

「地震の後、井戸の水は濁り、悪臭を放っていて、飲むことはできませんでした」。今、Sunartiは、CAREのプロジェクトに参加し、コミュニティの人々が安全な水を手に入れることができるよう、水の扱い方を教えています。災害後、生命を脅かすことになり得る水因性の病気を引き起こさないようにするためです。現地において文化的に最も効果のある教授方法がわかるSunartiのような地元のボランティアの存在は、この上なく貴重です。家庭訪問、イベント、演劇などのような形であれ、教育は習慣の変化をもたらすために必要不可欠です。Sunartiは、CAREバッグを大事そうに抱き、まっすぐ前を見ながら、コミュニティでのボランティア活動とこのプロジェクトに参加していることに対して誇りを持っていることを話します。「私は、家族やコミュニティの人々の水に対する習慣を変えたいと思っています。知識を持っているということは、何よりも有益なことです。今、私の家族は、安心して水を飲むことができます」。



被災地におけるCAREの支援は、今後も継続して行われます。ケア・インターナショナル ジャパンでは、地震開始直後から2006年12月までジャワ地震緊急募金に対する皆様からのご協力をお願いし、多くの皆様からご寄付をいただきました。ご支援いただきました皆様に、紙面を借りて心よりお礼申し上げます。

all photos:Andrea Lanthier-Seymour/CARE



# Afghanistan

Qala-e-Safid村の多くの人々は読み書きができません。また、読み書きができる人は、モスクでコーランを学ぶことができるよう、神学校で教育を受けてきました。以下は、この村に住む少女のストーリーです。

私の名前はBeheshta、11歳。8人兄弟です。私は4番目の子どもで、自分が学校に行く機会があるなんて、思いもしなかった。私たちの村には、学校がなかったの。だから、2人のお姉ちゃんは、私と同じ歳のときに学校に行くことができませんでした。今は二人とも結婚していて、とても学校に行っている余裕なんてない。でも、私はラッキーでした。CAREのおかげで、私の村に学校ができたんです。CAREは、最初に村の大人たちに会って、女の子たちが教育を受けられるよう学校が必要なのだ、ということを説明しました。大人たちの中には、私のお父さんもいたわ。幸いなことに、私の村は、女の子たちが教育を受けることの必要性を理解していて、そのための準備ができていました。まもなく学校が建てられて、私たちはそこで勉強するようになりました。

今、私は4年生で、読み書きのできないお父さんの仕事を助けることができます。お店を営んでいるお父さんは、いつもお客さんに商品代を貸し付けて、物を買ってもらっていました。でも、一人ひとりがいくら借りているのかをきちんと記録にとることができていなかった。今は私が、借りている人の名前と合計金額をノートにきちんと記録にとっているの。私が教育を受けたことで、家族みんなの役に立っているわ。

CAREがアフガニスタンにおいて実施する「コミュニティ運営による初等教育プロジェクト」では、遠隔地域の生徒が質の高い初等教育を受けられるように、コミュニティによって運営される学校での活動を支援しています。この事業の詳細内容については、本誌5ページ目をご覧ください。

# CARE World



テンブル大学ジャパンキャンパス 就職部 松岡 美千代

テンブル大学ジャパンキャンパス (TUJ) の職員が以前CARE USAにてボランティアをしていたという経緯から私もケア・インターナショナル ジャパンを知り、今では毎学期TUJの学生がインターンとしてCAREでお仕事をさせてもらうようになりました。

TUJでは、主に国際関係学科の学生がNGOの分野に大変興味を持っており、授業だけでなくこのようなインターンシップの機会を通じて、実際のNGOのお仕事に関わることができることは大変意義のあることだと感じています。国際的な社会になればなるほど社会貢献の大切さ、我々個人個人のコミュニティに対する責任というものがますます大切になってくると思います。私自身も学生たちの活動を通じて国際貢献に携われることを嬉しく思います。これからも学生たちがCAREでの日常業務、またイベントボランティアを通じて意識的にさまざまな貴重な体験ができることを願っております。



大成建設株式会社 社長室経営企画部CSR推進室 次長 渡邊 達夫

私ども大成建設は、日本企業2社との共同企業体により、ベトナム南部において、円借款対象の大規模橋梁建設工事に取り組んでいます。この工事では、HIV/AIDS感染防止活動が契約条件に盛り込まれたため、関連調査の実績・経験や現地での活動実績を踏まえ、CAREさん（日本およびベトナム事務局）に感染防止事業を委託しました。

当社の現地担当者からは、CAREさんの真摯な取り組みのおかげで、現場労働者や地域コミュニティ関係者のHIV/AIDSへの関心が高まるなど、着実に成果が上がっているとの報告を受けています。本社側窓口の一員としてケア・インターナショナル ジャパンの皆さんと接している私自身、皆さんの熱意ある取り組み姿勢には強いインパクトを受けています。この工事を通じて得た知見やCAREさんとのパートナーシップを、当社の他の海外工事や社会貢献活動において何とか生かしていきたい、そう考えています。



ケア・インターナショナル ジャパン 会員、ボランティアスタッフ 佐藤 英恵

働き始めてから数年経ち、仕事にも慣れた頃、会社以外の世界を広げてみたいと思い始めました。学生時代に保育園や小学校の子どもたちと遊ぶボランティアをしていた経験があり、今度は自分が働いたお金を「学びたい」と思う海外の子どもたち、特に経済的理由やその国の習慣などで学ぶ機会がなくなってしまう女の子たちのために役立てられないかなと思いました。CAREのホームページにたどりつき、学校に通うことができない女子などを対象とした教育活動を行っていることを知り、参加し始めました。

最初にメルマガ作成ボランティアの会議に参加し、和やかな中にも皆が一つのトピックについてあらゆる方向から疑問を出して話し合うことに刺激を受けたのと同時に、自分の勉強不足を痛感しました。それ以降、FM局の掲示板でCAREの活動について書き込みをしたり、イベントでのお手伝いもしています。私はつい仕事や家の世界だけで完結して煮詰まることが多いのですが、今はCAREの活動を通じて世界の出来事や問題を身近に意識することができ、大局的に物事を考えることや想像力を持つことの大切さを思い出すことができます。

2006年度（2006年7月1日～2007年6月30日）

## 正味財産増減計算書

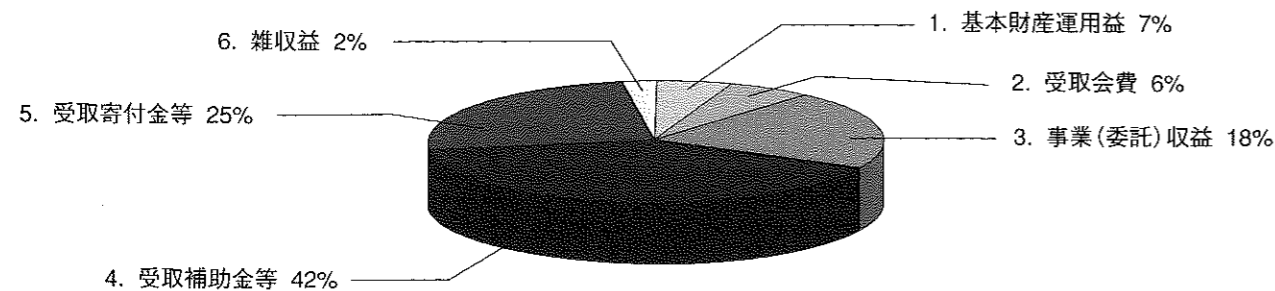
ケア・インターナショナル ジャパンでは2006年度より新公益法人会計基準を導入しております。  
2005年度についてはその基準に置き換えております。

### 正味財産増加の部

	【単位:円】	
	2006年度	2005年度
I. 一般正味財産		
(1) 経常収益		
1. 基本財産運用益	12,752,312	5,935,407
2. 受取会費	11,725,000	11,550,000
3. 事業（委託）収益	34,332,885	54,962,786
女子教育事業 サマキクマールⅡ（カンボジア）〔国際協力機構〕	11,250,842	18,089,186
紅茶農園内住民組織の運営能力向上プロジェクト（スリランカ）〔国際協力機構〕	23,082,043	—
プランテーション居住者の生活改善事業（スリランカ）〔国際協力機構〕	—	36,873,600
4. 受取補助金等	80,556,419	84,989,707
女子教育事業 サマキクマールⅡ（カンボジア）〔企業〕	500,000	0
コミュニティのための人材育成事業（カンボジア）〔ケア・フレンズ岡山、ケア・フレンズ東京〕	1,974,706	2,202,206
スマトラ沖津波復興支援 子どもの心のケアプロジェクト（スリランカ）〔企業、一般〕	8,100,000	8,482,976
コミュニティ運営による初等教育プロジェクト（アフガニスタン）〔ケア・フレンズ岡山〕	1,300,000	1,000,000
カントー橋建設にかかるHIV/AIDS予防事業（ベトナム）〔企業〕	8,871,513	4,022,587
現地語による子どもの教育プロジェクト（東ティモール）〔企業、一般〕	836,219	—
ジャワ島地震緊急支援 水と衛生プロジェクト（インドネシア）〔ジャパン・プラットフォーム、企業、一般〕	21,731,146	—
ジャワ島地震復興支援 保健衛生改善プロジェクト（インドネシア）〔ジャパン・プラットフォーム、一般〕	13,555,186	—
ジャワ島地震復興支援 住宅再建プロジェクト（インドネシア）〔一般〕	2,530,129	—
HIV/AIDSと人権プロジェクト（ベトナム）〔一般〕	0	—
特定寄付	16,157,520	16,740,750
篤志家	5,000,000	16,750,000
2005年度終了事業（5件）合計	—	35,791,188
5. 受取寄付金等	48,031,939	10,689,621
一般寄付金	38,044,034	5,055,946
募金収益	9,987,905	5,633,675
6. 雑収益	4,421,787	575,430
(2) 経常外収益	0	0
当期一般正味財産増加合計	191,820,342	168,702,951
II. 指定正味財産増加	0	0
III. 正味財産増加合計	191,820,342	168,702,951

\*1 CARE設立60周年記念イベント約1900万円を含む。

### 当期一般正味財産増加内訳

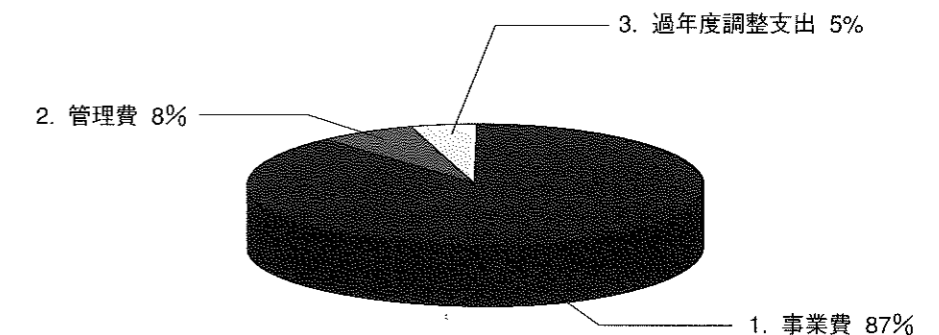


### 正味財産減少の部

	【単位:円】	
	2006年度	2005年度
I. 一般正味財産		
(1) 経常費用		
1. 事業費	167,125,142	141,024,114
a) 国際開発協力事業	118,478,975	110,114,658
女子教育事業 サマキクマールⅡ（カンボジア）	12,706,362	20,275,274
コミュニティのための人材育成事業（カンボジア）	4,276,631	2,468,624
紅茶農園内住民組織の運営能力向上プロジェクト（スリランカ）	30,074,707	—
スマトラ沖津波復興支援 子どもの心のケアプロジェクト（スリランカ）	9,358,744	8,914,479
コミュニティ運営による初等教育プロジェクト（アフガニスタン）	2,162,569	1,317,648
カントー橋建設にかかるHIV/AIDS予防事業（ベトナム）	11,436,257	4,665,344
現地語による子どもの教育プロジェクト（東ティモール）	720,612	—
ジャワ島地震緊急支援 水と衛生プロジェクト（インドネシア）	20,369,160	—
ジャワ島地震復興支援 保健衛生改善プロジェクト（インドネシア）	15,108,493	—
ジャワ島地震復興支援 住宅再建プロジェクト（インドネシア）	2,422,816	—
HIV/AIDSと人権プロジェクト（ベトナム）	9,107,000	—
新規開拓事業	322,648	707,364
その他	412,976	768,690
2005年度終了事業（7件）合計	—	70,997,235
b) マーケティング	44,739,770	27,768,182
c) 国際会議参加費	3,906,397	3,141,274
2. 管理費	15,038,299	14,588,049
(2) 経常外費用		
過年度調整支出	8,610,878	2,258,200
当期一般正味財産減少合計	190,774,319	157,870,363
II. 指定正味財産減少	0	0
III. 正味財産減少合計	190,774,319	157,870,363
正味財産期首残高	158,023,868	147,191,280
当期正味財産増減額	1,046,023	10,832,588
正味財産期末残高	159,069,891	158,023,868

\*2 CARE設立60周年記念イベント約1400万円を含む。

### 当期一般正味財産減少内訳

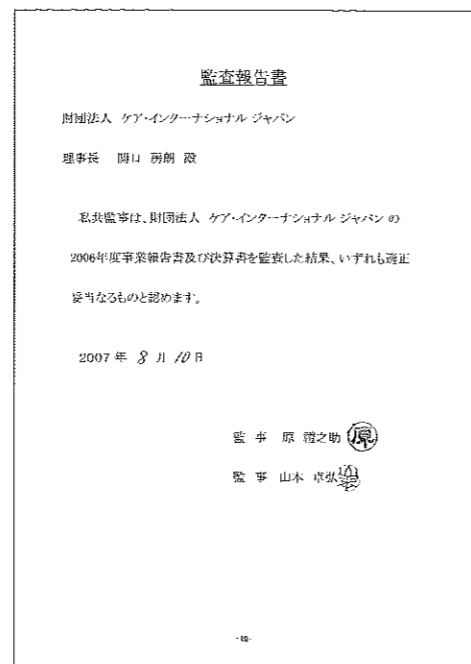
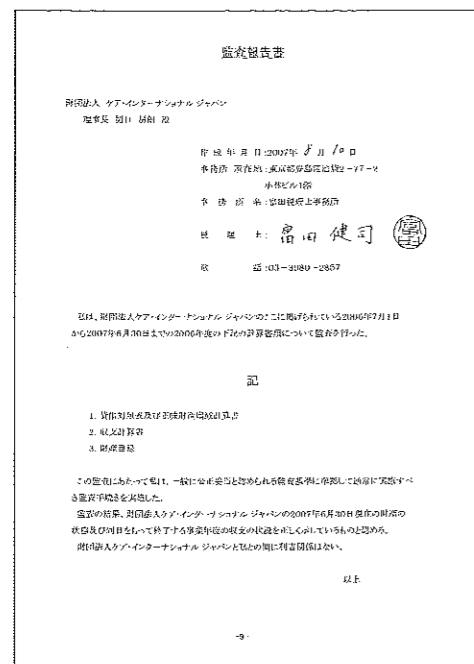


# 貸借対照表

【単位:円】

	2006年度	2005年度
<b>I. 資産の部</b>		
<b>1. 流動資産</b>		
現金預金	12,568,469	40,276,567
未収会費	300,000	350,000
未収金	1,753,970	12,373,000
立替金	73,230	0
仮払金	70,000	0
有価証券	29,120,983	15,110,494
流動資産合計	43,886,652	68,110,061
<b>2. 固定資産</b>		
基本財産合計	133,900,000	133,900,000
その他固定資産	3,872,304	3,500,000
固定資産合計	137,772,304	137,400,000
<b>資産合計</b>	<b>181,658,956</b>	<b>205,510,061</b>
<b>II. 負債の部</b>		
<b>1. 流動負債</b>		
未払費用	5,369,628	18,131,117
事業引当金	15,428,000	28,930,628
預り金	506,354	424,448
流動負債合計	21,303,982	47,486,193
<b>2. 固定負債</b>		
退職給付引当金	1,285,083	0
固定負債合計	1,285,083	0
<b>負債合計</b>	<b>22,589,065</b>	<b>47,486,193</b>
<b>III. 正味財産の部</b>		
<b>1. 指定正味財産</b>		
	0	0
<b>2. 一般正味財産</b>		
	159,069,891	158,023,868
正味財産合計	159,069,891	158,023,868
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>181,658,956</b>	<b>205,510,061</b>

# 監査報告書



# ケア・インターナショナル ジャパンの使命

## ビジョン:

ケア・インターナショナル ジャパンは、誰もが互いを尊重し、  
人間らしく生きる平和な世界を目指しています

## ミッション:

ケア・インターナショナル ジャパンは、コミュニティの  
人々と共に貧困を生み出す根源の解決に取り組みます

【2007年6月30日現在】

# 法人会員企業

有限会社 秋山商事  
株式会社 大塚商会 池袋支店  
財団法人 国際協力推進協会  
ジャパンローヤルゼリー株式会社  
神社本庁  
セイコーインスツル株式会社

株式会社 損害保険ジャパン  
東京海上日動火災保険株式会社  
東京電力株式会社  
日産自動車株式会社  
株式会社 PAP  
株式会社 VSN

株式会社ベンチャーセーフネット  
株式会社 丸和  
ミマスクリーンケア株式会社  
株式会社 渡辺プロダクション

# 支援グループ

ケア・フレンズ岡山  
ケア・フレンズ東京  
ケア・フレンズ札幌

ケア・サポーターズクラブ大分  
ケア・サポーターズクラブ熊本

【2007年6月30日現在】

# 財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン 役員・評議員

名誉会長・理事 和久本 芳彦  
理事長 関口 房朗  
常務理事 野口 千歳  
理事 安倍 洋子  
数原 孝憲  
加藤 陸子  
黒川 千万喜  
鈴木 照通

財団法人 国際文化交流推進協会 理事長  
株式会社 ベンチャーセーフネット 代表取締役会長  
財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン 事務局長  
ケア・フレンズ東京 会長  
国連監視検証査察委員会委員、外務省参与 (元アイルランド国大使)  
ケア・フレンズ岡山 名誉会長  
元トヨタ財団 常務理事  
株式会社 VSN 代表取締役社長

監 事 原 禮之助  
山本 卓弘

株式会社 エスアイアイナノテクノロジー 顧問  
学校法人 三室戸学園 理事

評 議 員 阿部 光博  
稲川 素子  
植田 兼司  
岡部 正彦  
河野 洋子  
五月女 光弘  
山東 昭子  
高橋 衛  
田村 滋美  
堤 功一  
ピーター・D・ビーターセン  
横田 笑  
渡辺 光子

ミマスクリーンケア株式会社 代表取締役社長  
株式会社 稲川素子事務所 代表  
弁護士  
日本通運株式会社 代表取締役会長  
カランマス・スジャトラ株式会社 取締役  
早稲田大学政治経済学部講師、外務省参与・大使 (NGO担当)  
参議院議員、元科学技術庁長官  
ドイツ証券株式会社 常勤監査役、株式会社パレスホテル 顧問  
東京電力株式会社 取締役会長  
元ハンガリー国大使  
株式会社 イースクエア 代表取締役社長  
元理事長夫人  
M&Mスタジオ 代表取締役

法 律 顧 問 植田 兼司 (弁護士)  
会 計 顧 問 富田 健司 (税理士)

財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0032 東京都豊島区雑司ヶ谷2-3-2 TEL: 03-5950-1335 FAX: 03-5950-1375

E-mail: [info@careintjp.org](mailto:info@careintjp.org) <http://www.careintjp.org>

---

財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン 2006年度年次報告書  
2007年 11月発行

**発行** 財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン ※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。